

会員のみなさん、こんにちは。さくらの開花が待ち遠しい今日この頃ですが、新型コロナウイルス感染症の拡大は各地で色々なところに影響を与えていますね。当院でも2・3月の糖尿病教室は延期としました。次回の開催は5月22日(金)の予定です。5月17日(日)にはつかさ会 総会・講演会が予定されております。その頃には事態が落ち着いていることを切に願います。また、岐阜県糖尿病協会の総会は例年初夏ですが、今年は会場設備の関係で9月6日(日)に開催予定です。詳細は後日ご案内させていただきますね。

次年度の会費の願いを同封いたしました。事務作業の関係で「さかえ」のお届けが遅れましたことをお詫びいたします。

さて、今月の会報では糖尿病代謝内科の廣瀬先生に、「さかえ」の記事のよみどころを紹介してもらいます。また、今月号では当科の矢部先生が、特別企画1で「アジアの糖尿病の現状と対策」(P17)について解説されています。

つかさ会の皆さん、はじめまして。3月号を担当させていただきます。医師の廣瀬と申します。気温の寒暖差のみられるこの時季ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今月の『さかえ』では「糖尿病とシックディ」(P10)に小さくですが、シクルス(COVID-19)、マスメディアでは話題になっていませんが、インフルエンザ、ノロ感染など、冬季には特にそのような病気になる可能性があります。それらの病気により、食事が食べられなくなり低血糖になったり、病気と闘うホルモンが分泌され高血糖になる可能性があります。重度の低血糖では、意識がもうろうとする可能性があります。また、高血糖により、糖尿病昏睡をおこす可能性があります。個々の糖尿病患者さんの状態はそれぞれ違い、対処法が変わってきます。病気になる前に、主治医の先生、看護師さんと、病気になった時の対処法を決めておきましょう。



続いて、特別企画1「アジアの糖尿病の現状と対策」(P17)について紹介します。国際糖尿病連合によれば、世界の糖尿病人口は4億6300万人にのぼり、今後増加することが見込まれます。糖尿病人口の5割以上がアジアに集積しています。アジアでは日本などの一部の国々を除き半数が、医療体制であったり、貧困などにより、診断が受けられず糖尿病足病変、重症な糖尿病腎症にかかっています。日本糖尿病協会では、食品交換表の無料配布、中古ヘモグロビンA1c測定器の寄付などの支援をしております。また、域内から医療スタッフを招聘し、糖尿病足病変のケアのトレーニングをしております。アジアの糖尿病の病態は多様ですので、アジアの人に適した予防や治療の研究が必要です。環境に恵まれた日本での治療は大切ですが、恵まれない国々の人々の糖尿病の発症や重症化の抑制も大切な事業と考えます。全世界の糖尿病患者さんの予防、重症化予防ができればよいと夢見ます。

